

Ⅲ 公園緑地功労賞

公園緑地功労賞は、我が国における公園緑地事業及び都市緑化事業の実務に多年従事して功労があり、かつ他の模範となる人に贈呈される賞で、平成4年に設けられています。

国、地方公共団体及び公益法人等の職員として公園緑地事業及び都市緑化事業の実務に20年以上携わり、年齢が65歳以上の者を選考の対象としています。

第29回公園緑地功労賞受賞者（敬称略・五十音順）

① ^{あおき}青木 ^{たかのり}孝知（67歳）

元 神戸市建設局担当部長（神戸市公園緑化協会理事：森林植物園長）

受賞理由

氏は、昭和55年に神戸市に奉職して以来、39年間に亘り、都市公園の整備や維持管理、市街地の緑化・飾花等に取り組み、今日の神戸市の緑豊かな街づくりに貢献した。阪神淡路大震災後には、花と緑を通じた市民協働による街の復興に取り組むとともに、住宅・都市整備公団派遣の際には、地方都市における防災公園の整備に多大な功績を残した。

また、神戸市立森林植物園長として、園の管理運営に尽力されるなど、神戸市の公園緑地行政における功績は多大である。

② ^{くろだ}黒田 ^{ひろし}博司（71歳）

元 宮崎県都市計画課 課長

受賞理由

氏は、昭和49年に宮崎県に採用されてから宮崎国体（S54）の主会場である県総合運動公園の建設や全国に先駆けて取り組んだ沿道修景美化条例の実践、第16回都市緑化フェア（グリーン博宮崎'99）の誘致に中心的な立場として尽力され、会場のシーガイア（県立阿波岐原森林公園）の主要施設を結ぶパークウェイの整備、さらには県立総合文化公園の建設、若手職員へ指導など本県の沿道修景や公園緑地行政に多大な功績を残された。

③ ^{こいけ}小池 ^{あつお}敦夫 (68歳)

元 名古屋市緑政土木局緑化推進課長

現 公益財団法人名古屋市みどりの協会 常務理事

受賞理由

氏は、名古屋市において一貫して公園緑地行政に携わり、特に長期未整備公園緑地問題においては、懸案であった住宅密集タイプの川名公園事業化や使用貸借によるオアシスの森づくり事業の立ち上げなど先進的な取り組みを行った。

また、日本造園学会中部支部長などを歴任し、現在、公益財団法人名古屋市みどりの協会において、都市緑化・公園緑地の振興に努めており、名古屋市の公園緑地行政の発展に寄与された功績は多大である。

④ ^{こばやし}小林 ^{まさる}勝 (67歳)

元 弘前市都市環境部公園緑地課参事

現 弘前市都市整備部公園緑地課

受賞理由

氏は、昭和58年8月に財団法人弘前市公園緑地協会に採用され、以来、一貫して公園緑地業務に携わり、昭和63年5月の弘前城植物園の開園へ向けての準備等に中心的な役割を果たした。

また、平成16年4月に弘前市職員として採用後も、長年培われた知識と技術を発揮され、特に弘前市独自のサクラの管理技術継承に意を注ぎ、弘前公園のサクラの価値の向上のみならず、市の公園緑地行政の発展に尽力された功績は誠に顕著である。

⑤ ^{さかえだに} 栄谷 ^{ひろし} 洋 (65 歳)

元 広島市都市整備局緑化推進部 部長

現 公益財団法人広島市みどり生きもの協会常務理事

受賞理由

氏は、広島市に奉職以来39年間に亘り、公園緑地行政全般において幅広く活躍した。特に平成24年度には、「花と緑の広島づくり推進本部」を設置し、市民協働の事業を次々立ち上げ、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア」の招致につなげるなど、都市緑化の普及啓発における功績は多大である。また、原爆の被災から復興する過程で国内外から寄付された樹木や被爆樹木など、平和への願いが託された貴重な緑の保存・継承にも尽力した。

⑥ ^{さくま} 佐久間 ^{さとし} 哲 (74 歳)

元 川崎市環境局参事

受賞理由

氏は、川崎市職員として長年に渡り公園緑地行政に携り、大規模開発等における緑地の創出に尽力し、潜在自然植生の概念による緑化手法の導入や生物多様性のネットワークづくりに貢献された。また、昭和47年度から始まった全市緑化の取り組みにおいて、工場・官公庁等施設緑化樹木の普及啓発や緑化指導に卓越した手腕を発揮し、緑豊かなまちづくりの推進に貢献された功績は多大である。

⑦ ^{はしもと}橋本 ^{わたる}渉 (73歳)

現 一般財団法人日本造園修景協会兵庫県支部副支部長

受賞理由

氏は、昭和49年4月対馬造園店に入社し、民間工事・公共公園緑化工事において優れた技術を以って優秀な成果をあげている。この間、(一社)兵庫県造園建設業協会会長、(一社)日本造園建設業協会兵庫県支部長、(一財)日本造園修景協会兵庫県支部副支部長等公益法人の要職を勤め、我が国の緑・公園に関する実務に多大な功労が認められる。2000年の国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」及び2010年の「淡路花博10周年記念事業」開催に尽力し、さらに2021年開催予定の「淡路花博20周年記念事業」においては兵庫県造園建設業協会会長として精力的に取り組んでいる。また、(一財)日本造園修景協会が主催する「都市緑化のための土壌・農薬・病害虫対策研修会」においては、緑化樹等の被害と対策、特定外来生物対策について、実践的な講義を組込むなどその業績は顕著である。

⑧ ^{はせがわ}長谷川 ^{きよひろ}清弘 (68歳)

現 一般財団法人公園財団本部参与

受賞理由

氏は、国営公園等の管理運営に直接・間接的に関わり、社会の変化にも柔軟に対応しながら利用促進や地域との連携・貢献など、先進的な管理運営の実践に尽力。

また、自然災害の多発や異常気象等環境の変化も踏まえた安全管理や事故の未然防止に向けた指導など先導的な役割りを果たしてきたほか、「緑・花文化の知識認定試験」や「環境教育プログラム ProjectWild」など普及啓発事業の立上げ・推進など外部への情報発信や人材育成にも尽力し、現在も引き続き活躍中である。

(年齢、役職は令和3年3月31日現在)